

「知ってる？ファミリーサポート事業」

～南砺市の子育て世代の支援ニーズと地域社会のマッチング～

メンバー: 浅野 咲貴、M LU MAI、板倉 風音、井上 智恵、岩佐 怜奈、
WIN LAE LAE PHYU、WINT THANDAR PHYO、碓井 奈子
看護学科 稲垣 AD

1. はじめに

南砺市から「子育て世代の支援ニーズと地域社会のマッチング」について何か考えてもらいたいという依頼があったため、南砺市の子育て支援について調べた。

わが国の人口動態をみると、2020年の年齢3区分の人口構成割合の年少人口は12.1%、生産年齢人口は59.5%、老年人口は28.7%と、少子高齢化が進んでいる。富山県の年齢3区分の人口構成割合では、年少人口割合は11.3%、生産年齢人口は55.9%、老年人口は32.7%である。南砺市の年少人口割合は10.5%、生産年齢人口は50.7%、老年人口は38.6%であり、全国及び富山県と比較して南砺市はさらに少子高齢化が進んでいることがわかった。2019年の合計特殊出生率は1.36となり過去10年で最低となった。富山県の合計特殊出生率は1.53、南砺市は1.44で全国に比べると若干高いが、少子化に歯止めがかかる数字とは言えない。また、南砺市の総人口は右肩下がりに減少しているため、子どもが健全に育まれるように支援することは急務であるといえる。

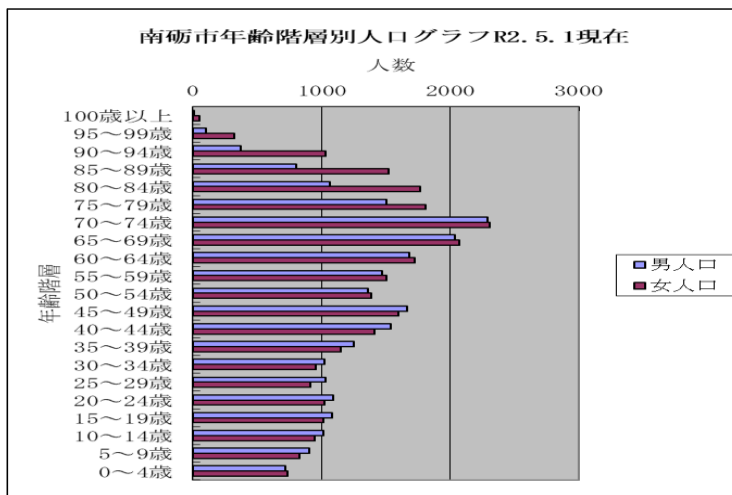
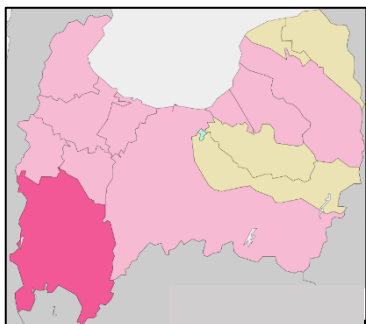
2000年に21世紀の母子保健の方向性を示す「健やか親子21」が策定された。2015年から「健やか親子21（第2次）」が開始され、10年後の「すべての子どもが健やかに育つ社会」を目指し3つの基盤課題と2つの重点課題が設定された。基盤課題Cである「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」には地域で積極的に取り組む必要があると考えた。

南砺市の子育て支援について調べると、子どもを遊ばせることのできる公共施設・公園ともに20施設以上あった。医療機関は主に6施設、ショッピングセンターは5店舗、スーパーは7店舗、コンビニは17店舗と多い。保育園は12施設あり、南砺市子育て支援ガイドブック「すこやか」、子育て応援制度「なんと☆すこやかファイル」など子育て支援が積極的に行われている。中でも、ファミリーサポート事業という子育て支援事業があることがわかった。会員登録をして「依頼会員」になれば「協力会員」であるサポーターによる子育て支援を受けることができる有料サービスである。ファミリーサポートセンターは、「依頼会員」と「協力会員」との仲介役として連絡や調整を行う。地域住民がサポーターとなり子育てを支援することは、地域の子育て世代にとって大きな安心となり、高齢化が進む南砺市の強みにもなると考えた。

2. 目的

ファミリーサポート事業は保育園と違い病気の子どもでも預けられ、いつでも利用できること、預ける時間も保護者の都合に合わせて選ぶことができることが特徴だとわかった。ま

た、子育て経験がある地域の方に預けられることで、仕事をしている親が安心して子どもを預けられるのではないかと感じた。このサービスについて、子育て世代はもちろん、多くの方が周知することで、地域で安心して子育てができる支援につながると思い、南砺市でどの程度利用されているのか調べることにした。



資料：市民課 住民基本台帳人口

3. 方法

南砺市のファミリーサポート事業について詳しく知るために、南砺市の担当者に質問した。ファミリーサポート事業の現状から課題を明確にし、サービスの周知度と利用率を向上させるための方法を提案した。市の担当者との意見交換を行いながら、具体的な周知方法をまとめていった。

4. 結果

南砺市のファミリーサポート事業の現状

- ・ 1時間 600円で利用できる。1回の利用時間：30分～2時間程度が多い。
- ・ 利用者数：月間10人前後、年間200人前後（利用者の半分以上はリピーター）
- ・ 利用者の年齢：30～40代の方が多い。子供の年齢：乳幼児や小学校低学年が多い
- ・ 利用理由：①放課後の預かり②仕事に行っている間の乳幼児の預かり③保育所の送迎
- ・ 妊産婦の認知度：50%、利用率：5.7%、サービスの利用ニーズ（利用したい）：23%
- ・ 周知方法：保育園・幼稚園、子育て支援センター、保健センターにパンフレット設置の依頼、各子育て支援センターでのイベント開催時や保健センターでの定期健診時に事業の紹介、市の広報やホームページへの掲載など
- ・ 利用者からの要望や意見：「すぐに預かりの依頼や実施ができれば楽だと思う。」
- ・ サポーター数：84名 年齢：40代～60代の女性が多い。
- ・ サポーターからの要望や意見：「サービスの認知度を上げる必要があるのでは？」「依頼がほとんどないのに、協力会員である必要はあるのか？」

南砺市のファミリーサポート事業の現状から示された課題

妊産婦の認知度は50%で、「利用したい」といったニーズもある。しかし、実際の利用率は5.7%と低く、何らかの理由で利用できない状況があることがわかった。サポーターから

は、依頼がほとんどないことへの不満が聞かれていることから、ファミリーサポート事業の周知度と利用率の向上が必要だと思った。そして利用する側もサポートする側も満足できるよう、わかりやすい私たちは様々な周知方法の案を提示した。

私たちが考えた周知方法

- ・ 回覧板や広報⇒子育て世代の親世代にも周知する。孫育て世代も利用できる。
- ・ 病院や会社にポスターを貼る⇒子供の病院受診の際に目に留まりやすい。病院や会社で働く子育て世代のスタッフの目に留まりやすい。結婚・出産を考える際の準備ができる。
- ・ SNS や広告での発信⇒若い世代への周知には SNS が効果的である。
- ・ 保育園や幼稚園で直接パンフレットを配る⇒置いてあるだけでは手に取らない。
- ・ サポーターマーク（ステッカー）の作成、サポーターリストの作成とアプリの作成
⇒どんな人がサポーターなのか、外側から見えれば安心なのではないか。
- ・ サポーターが専用電話を携帯する⇒急に利用依頼したいときに直接依頼ができる。
- ・ 宣伝カーでアナウンスしながら巡回する⇒地域全体で周知できる。
- ・ 大学や専門学校等にポスターを貼る⇒これから子育て世代を迎える学生にも周知できる。

南砺市の担当者との意見交換

個人情報保護の観点や市の予算関係から実現不可能である案がいくつかあった。働く子育て世代の目に付きやすいように、病院や会社へのポスター貼付、親世代や学生など様々な世代をターゲットにした周知の検討については有直接的なパンフレットの配布は有効な周知方法であると意見を頂いた。

個人情報保護の観点上：実現不可

- ・ サポーターマーク（ステッカー）の作成、サポーターリストの作成とアプリの作成

市の予算の関係上：実現不可

- ・ サポーターが専用電話を携帯する。
- ・ 宣伝カーでアナウンスしながら巡回する。

有効な提案として

- ・ 病院や会社にポスターを貼る
- ・ 大学や専門学校等にポスターを貼る
- ・ 回覧板や広報⇒今後、パンフレットやポスターを市報に添付することを検討される。
- ・ SNS や広告での発信⇒今後、ポスターを広告として載せることを検討される。
- ・ 保育園や幼稚園で直接パンフレットを配る⇒今回はコロナウィルス感染防止のため不可。

ポスターを作成した：工夫した点

- ・ ファミリーサポート事業の情報を端的にまとめた
- ・ 初めて見る人にもわかりやすくした
- ・ 人目を引くようなデザインとし、かわいらしいイラストを入れた
- ・ QR コードをつけて詳しい情報は南砺市のホームページから確認できるようにした

5. 考察

今回私たちは、南砺市における子育て世代のニーズと地域のマッチングについて考え、ファミリーサポート事業の周知度と利用率の向上を目指し、ポスター作成に取り組んだ。南砺市の妊産婦への調査では、ファミリーサポート事業の周知度 50%で、23%の利用者ニーズはあるが、利用率は 5.7%であり、利用したいというニーズがあるにもかかわらず、何らかの理由で利用できない状況があることがわかった。一方、サポーター登録数は多く、サポート依頼があったらいつでも対応できるように体制を整えているが、利用率は低いため、サポーターは役割を果たすことができない。ファミリーサポート事業の周知度と利用率の向上を目指すには、利用率が低い要因の解明が必要である。

今回作成したポスターには、ファミリーサポート事業の情報をわかりやすく端的にまとめ、QRコードをつけて詳しい情報は南砺市のホームページから確認できるようにした。これによって子育て世代や若い世代がスマートフォン等でいつでも詳しい情報を得ることができ、どんなサービスなのか知ることができる。また、南砺市のホームページにつながるため、その他の子育て支援サービスや相談窓口の情報にもアクセスしやすくなり、子育ての悩みを解決するための一手となると考える。

今後子育て世代になる私たちはこのような事業を知っておくべきだと思う。人目を引くようなデザインとし、かわいらしいイラストを入れたことで、子育て世代に限らず、さまざまな世代の人の目に留まり、地域全体でファミリーサポート事業についての情報を得ることができ、広く周知されると考える。

こうして周知度と利用率が上がれば、地域の元気な高齢者や子育ての経験者が子育てを支援する縁の下の力持ちとなる。地域全体で子育てを支援することは、健やか親子 21 の基盤課題である「地域全体で健やかな子どもの成長を見守る」ことにつながり、地域全体の活気にもつながると考える。

6. まとめ

- ・子育て世代のニーズと地域のマッチングを考え、南砺市のファミリーサポート事業の周知度と利用率向上に向けてポスター作成に取り組んだ。
- ・地域とのマッチングを考慮し、個人情報保護や市の予算など財政面を考慮して周知方法を提案する必要性がわかった。
- ・南砺市の担当者と意見交換しながら制作したポスターには、子育て世代に限らず広く周知されるような工夫を施すことができた。

7. 引用文献

- ・森恵美 他、母性看護学概論、医学書院、
- ・南砺市 妊産婦調査の結果
- ・伊達岡五月、西村真実子、ファミリー・サポート・センターにおける子育て支援の実態と利用者の認識、石川看護雑誌、Vol. 13、2016
- ・総務省、住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数